



景 気 観 測 調 査
報 告 書



平成 29 年度版

玉 造 商 工 会

【目 次】

I. 調査概要	2
II. 調査結果	
1. 四半期ごとの業況判断	4
2. 四半期ごとの業況判断（前年度比較）	5
3. 業種別業況判断の主な理由	6
4. 四半期ごとの次期の業況予測	7
5. 四半期ごとの次期の業況判断（前年度比較）	8
6. 業種別業況判断の主な理由	9
7. 設備投資の動向	9
8. 設備投資の主な内容	10
III. 調査票	11

I. 調査概要

1. 調査目的 : 当地を代表する観光産業の景気動向を把握し、今後の地元観光産業の基礎資料として活用することを目的とする。
2. 調査対象者 : 玉造商工会会員事業所（法人・個人含む）で、観光産業に従事する事業所の経営者、または経営に携わる方。

※業種と対象者数

・木地漆器業	5 事業者
・小売業	12 事業者
・料理・飲食業	9 事業者
・旅館・ホテル業	9 事業者
合計	35 事業者

（※事業者の選定は任意）

4. 調査方法 : 上記対象者に対する留置式パネル調査。
5. 調査期間 : 四半期周期
3月～5月（第1期）
6月～8月（第2期）
9月～11月（第3期）
12月～2月（第4期）
6. 調査項目 : ①. 当期の景況感についての評価及びその判断理由。
②. 次期の景況感についての評価及びその判断理由。
③. 設備投資計画についての有無及びその判断理由。
7. 集計方針 : ・調査項目の①、②は、「景気が良い」「やや景気がよい」と判断した回答の構成比合計から、「やや景気悪い」「景気が悪い」と判断した回答の構成比合計を差し引いた数値で業況判断の指数（Diffusion Index）としている。なお、「例年と変わらない」はカウントしない。
また、各事業所の業況判断の理由を踏まえ、指数と照合し相対的に各期の景気動向を解釈する。

なお、判断理由（コメント）のコンテキスト（文脈・意味）については、その地域性、背後の事象、その要因、頻出する特定の事項やキーワードなどを検討し、短文化して記載している。

- ・調査項目の③は、業種ごとの設備投資の有無とその理由について、相対的に検討し業況判断を行う。

8. その他 :
- ①. 集計結果にあたっては、回収数を母数（標本内標本）とし地域全体の代表性を表すものではない。
 - ②. 集計時の構成比は小数点以下 2 位を四捨五入しているため合計が必ずしも 100%にはならない（99.9～100.1）場合があるが、表記は 100.0%としている。
 - ③. 報告書作成においては、集計・分析方針を受けて有用と判断されるものを採択し掲載することとする。
 - ④. 本報告書は、年間 4 回の調査を集約したものである。
 - ⑤. 調査結果 1. 及び 3. に掲載している年間ポイントは、本事業継続を前提とすることにおいて、以後の年度ごとにその業況感の向上・回復や下降・下落の変遷を比較することを狙いとしている。

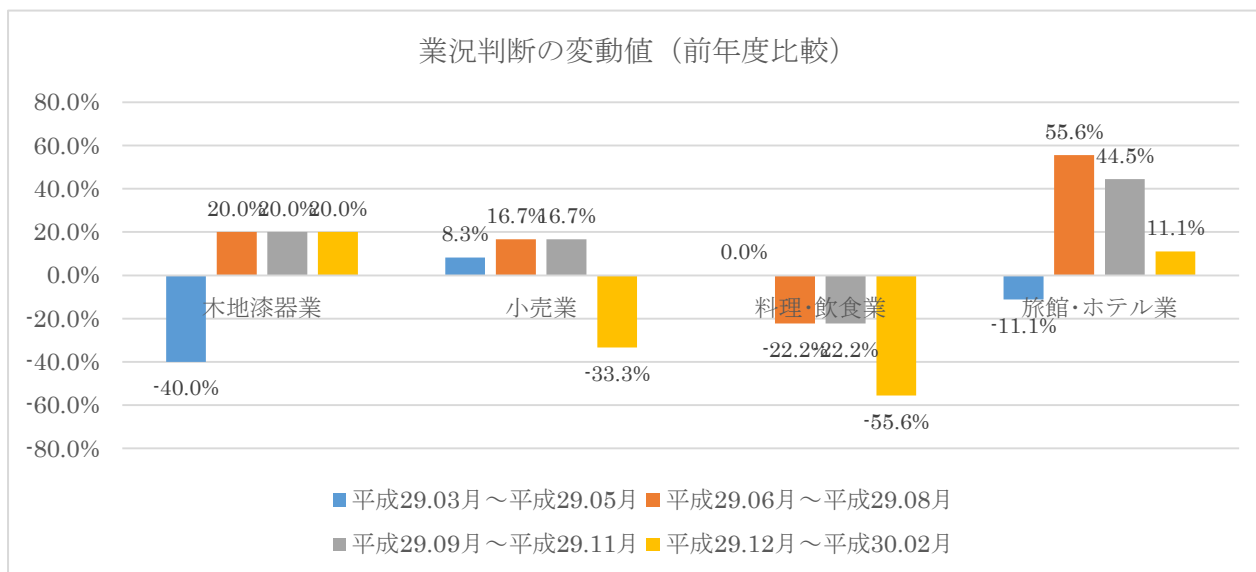
【表1 四半期ごとの業況判断 集計表】

平成29.03月～平成29.05月	景気がよい	やや景気がよい	例年と変わらない	やや景気が悪い	景気が悪い
木地漆器業	0.0%	20.0%	40.0%	20.0%	20.0%
小売業	8.3%	25.0%	33.3%	16.7%	16.7%
料理・飲食業	0.0%	0.0%	44.4%	55.6%	0.0%
旅館・ホテル業	0.0%	11.1%	33.3%	55.6%	0.0%
平成29.06月～平成29.08月	景気がよい	やや景気がよい	例年と変わらない	やや景気が悪い	景気が悪い
木地漆器業	0.0%	0.0%	60.0%	20.0%	20.0%
小売業	8.3%	8.3%	33.3%	33.3%	16.7%
料理・飲食業	0.0%	22.2%	11.1%	55.6%	11.1%
旅館・ホテル業	11.1%	11.1%	55.6%	22.2%	0.0%
平成29.09月～平成29.11月	景気がよい	やや景気がよい	例年と変わらない	やや景気が悪い	景気が悪い
木地漆器業	0.0%	20.0%	20.0%	40.0%	20.0%
小売業	0.0%	33.3%	25.0%	25.0%	16.7%
料理・飲食業	0.0%	0.0%	55.6%	33.3%	11.1%
旅館・ホテル業	0.0%	33.3%	22.2%	44.4%	0.0%
平成29.12月～平成30.02月	景気がよい	やや景気がよい	例年と変わらない	やや景気が悪い	景気が悪い
木地漆器業	0.0%	0.0%	20.0%	40.0%	20.0%
小売業	0.0%	8.3%	25.0%	41.7%	25.0%
料理・飲食業	0.0%	11.1%	11.1%	66.7%	11.1%
旅館・ホテル業	0.0%	11.1%	44.4%	44.4%	0.0%

2. 四半期ごとの業況判断（前年度比較）

前年度調査と同時期業況判断の変動値の比較が図2である。（今年度調査と前年度調査のD Iの差）料理・飲食業を除き、概ね前年度よりは改善されている。中でも、旅館・ホテル業は前年度よりは業況が良くなったという回答が多いが、実質的には図1の通り厳しい状況が続いている。

【図2 業況判断の変動値】



【表 2 業況判断の変動値】

	木地漆器業	小売業	料理・飲食業	旅館・ホテル業
平成29.03月～平成29.05月	-40.0%	8.3%	0.0%	-11.1%
平成29.06月～平成29.08月	20.0%	16.7%	-22.2%	55.6%
平成29.09月～平成29.11月	20.0%	16.7%	-22.2%	44.5%
平成29.12月～平成30.02月	20.0%	-33.3%	-55.6%	11.1%

3. 業種別業況判断の主な理由

木地漆器業	判断理由
第1期	観光客の減少や停滞による影響。
第2期	観光客の減少、停滞。天候不順による客足の減少。
第3期	インバウンドで観光客が増えるも売上には結び付かず。
第4期	天候不順による客足の減少。

小売業	判断理由
第1期	観光客の減少、購買客単価の減少の影響。一部で来店客の増加あり
第2期	観光客の減少、停滞。天候不順による客足の減少。
第3期	インバウンドで外国人観光客の売上が好調でやや持ち直すものの、例年より観光客数は減少。
第4期	天候不順による客足の減少。

料理・飲食業	判断理由
第1期	観光客及び来店客の減少の影響。
第2期	観光客の減少、停滞。競合店の存在、天候不順による客足の減少。
第3期	売上、来店客数は横這いだが、地元客は減少。
第4期	天候不順による客足の減少。

旅館・ホテル業	判断理由
第1期	常連客により売上は横這い、一部で来店客増加あり。
第2期	行事による来客の増加があるものの、一方で平均客単価の減少。
第3期	売上、来店客数は横這い。天候不順による客足の減少。
第4期	天候不順による客足の減少。

4. 四半期ごとの次期の業況予測

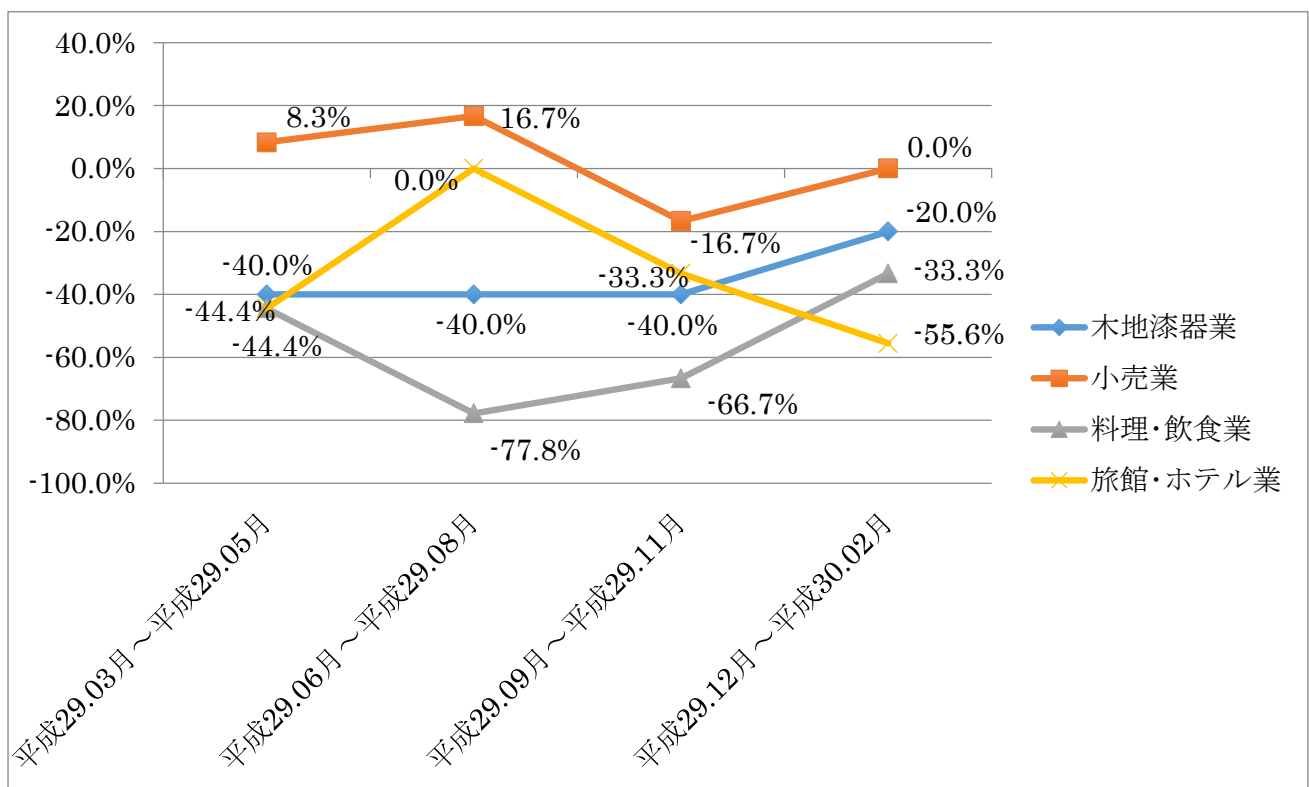
小売業が調査年度前半2期にわたり比較的好調との見通しで、旅館・ホテル業は2期目が好調だが、4期目は大きく落ち込む見通しであった。また、料理・飲食業は4業種の中で、業況見通しが最も厳しい。

周 期	木地漆器業	小売業	料理・飲食業	旅館・ホテル業
第1期→第2期	やや不調	やや好調	やや不調	やや不調
第2期→第3期	やや不調	やや好調	不調	やや不調
第3期→第4期	やや不調	やや不調	不調	やや不調
第4期→翌1期	やや不調	やや不調	やや不調	不調
年間ポイント	-2.0	0.0	-3.0	-2.5

※判断基準： 好調=50%以上
 やや不調=0~-50%未満
 ※年間ポイント 好調=1ポイント
 やや不調=-0.5ポイント
 の加減。(最高点=4ポイント 最低点=-4ポイント)

やや好調=1~50%未満
 不調=-50%以下
 やや好調=0.5ポイント
 不調=-1ポイント

【図3 四半期ごとの次期の業況予測】



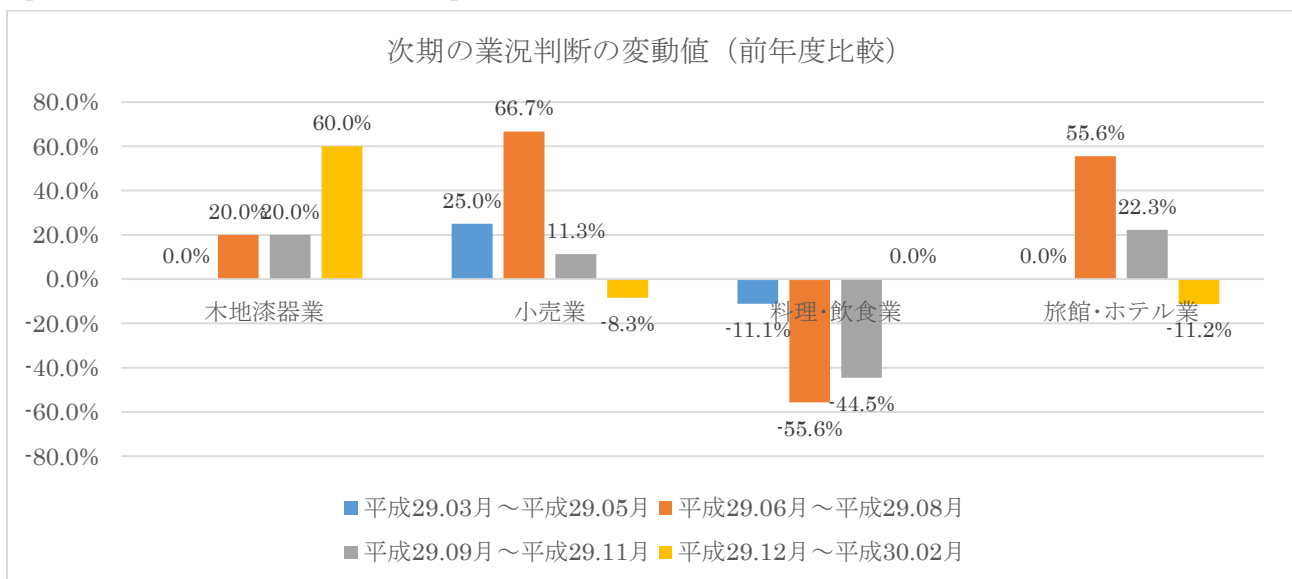
【表3 四半期ごとの業況予測 集計表】

平成29.03月～平成29.05月	景気がよい	やや景気がよい	例年と変わらない	やや景気が悪い	景気が悪い
木地漆器業	0.0%	0.0%	60.0%	20.0%	20.0%
小売業	0.0%	41.7%	25.0%	25.0%	8.3%
料理・飲食業	0.0%	11.1%	33.3%	44.4%	11.1%
旅館・ホテル業	0.0%	11.1%	33.3%	44.4%	11.1%
平成29.06月～平成29.08月	景気がよい	やや景気がよい	例年と変わらない	やや景気が悪い	景気が悪い
木地漆器業	0.0%	0.0%	60.0%	20.0%	20.0%
小売業	16.7%	25.0%	33.3%	8.3%	16.7%
料理・飲食業	0.0%	0.0%	22.2%	77.8%	0.0%
旅館・ホテル業	0.0%	33.3%	33.3%	22.2%	11.1%
平成29.09月～平成29.11月	景気がよい	やや景気がよい	例年と変わらない	やや景気が悪い	景気が悪い
木地漆器業	0.0%	20.0%	20.0%	40.0%	20.0%
小売業	0.0%	33.3%	16.7%	41.7%	8.3%
料理・飲食業	0.0%	0.0%	33.3%	55.6%	11.1%
旅館・ホテル業	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%
平成29.12月～平成30.02月	景気がよい	やや景気がよい	例年と変わらない	やや景気が悪い	景気が悪い
木地漆器業	0.0%	20.0%	20.0%	20.0%	20.0%
小売業	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%
料理・飲食業	0.0%	0.0%	66.7%	22.2%	11.1%
旅館・ホテル業	0.0%	0.0%	44.4%	55.6%	0.0%

5. 四半期ごとの次期の業況判断（前年度比較）

次期の業況判断の前年度との変動値の比較が図4である。（今年度調査と前年度調査のD Iの差）年度前半は小売業、旅館・ホテル業の次期予想は、前年度と比較的すると好調で、木地漆器業は4期に業況良くなるとの見通しであった。一方、料理・飲食業は厳しい業況が続く。

【図4 次期の業況判断の変動値】



【表4 次期の業況判断の変動値】

	木地漆器業	小売業	料理・飲食業	旅館・ホテル業
平成29.03月～平成29.05月	0.0%	25.0%	-11.1%	0.0%
平成29.06月～平成29.08月	20.0%	66.7%	-55.6%	55.6%
平成29.09月～平成29.11月	20.0%	11.3%	-44.5%	22.3%
平成29.12月～平成30.02月	60.0%	-8.3%	0.0%	-11.2%

6. 業種別業況判断の主な理由

木地漆器業	判断理由
第1期→第2期	入れ込み客数に変化はなし。復調の見通しは厳しい。
第2期→第3期	入れ込み客数に変化はなし。復調の見通しは厳しい。
第3期→第4期	入れ込み客数に変化はなし。復調の見通しは厳しい。
第4期→翌1期	入れ込み客数に変化はないが復調に期待したい。

小売業	判断理由
第1期→第2期	イベントの開催や観光施設の増設で来店客増加の見込み。
第2期→第3期	観光シーズンを迎え来店客増、売上増を期待。
第3期→第4期	観光シーズンが終わり来店客の増加は期待できず。
第4期→翌1期	好天による来店客増加に期待。多少売上増が期待できる。

料理・飲食業	判断理由
第1期→第2期	従来通りで来店客の増加は期待できず。
第2期→第3期	入れ込み客数に変化はなし。復調の見通しは厳しい。
第3期→第4期	例年と変わらず。
第4期→翌1期	例年と変わらず。

旅館・ホテル業	判断理由
第1期→第2期	観光客等の来客増加の見通し立たず。
第2期→第3期	天候の回復、観光シーズンを迎え来店客増、売上増を期待。
第3期→第4期	予約数が伸びず。集客の材料に乏しい。
第4期→翌1期	常連客の高齢化、予約状況から判断して厳しい。

7. 設備投資の動向

各期の設備投資の状況は、表3の通りとなった。年平均の設備投資割合で業種別にみると、小売業が最も積極的に投資を行っており、逆に設備投資を抑えている業種は木地漆器業であった。(表5)

【表5 各期の設備投資の状況】

周 期	木地漆器業	小売業	料理・飲食業	旅館・ホテル業
第1期	0/5件 (0%)	5/12件 (42%)	3/9件 (33%)	3/9件 (33%)
第2期	0/5件 (0%)	5/12件 (42%)	3/9件 (33%)	4/9件 (44%)
第3期	1/5件 (20%)	5/12件 (42%)	2/9件 (22%)	3/9件 (33%)
第4期	1/5件 (20%)	5/12件 (42%)	2/9件 (22%)	1/9件 (11%)
年平均割合	20.0%	37.5%	25.7%	24.8%

※年平均割合＝設備投資を行った事業者数の期ごとの割合の平均値。

なお、設備投資が無かった期は含めない。

8. 設備投資の主な内容

木地漆器業	主な設備投資の主な内容
第1期	なし
第2期	なし
第3期	販路拡大、販促品の制作 等
第4期	販路拡大、販促品の制作 等

小売業	主な設備投資の主な内容
第1期	老朽化した設備の交換・改修、看板、販路開拓 等。
第2期	店舗施設の改修、什器備品の購入、販路開拓 等
第3期	老朽化した設備の交換・改修、看板 等。
第4期	店舗施設の改修、什器備品の購入、販路開拓 等

料理・飲食業	主な設備投資の主な内容
第1期	老朽化した設備の交換・改修 等。
第2期	店舗施設の改修 等。
第3期	店舗施設の改修 等。
第4期	店舗施設の改修 等。

旅館・ホテル業	主な設備投資の主な内容
第1期	施設の改修、耐震補強工事 等。
第2期	施設の改修、耐震補強工事 等。
第3期	施設の改修、耐震補強工事 等。
第4期	耐震補強工事 等。

【調査票】

『景気観測に関するアンケート』



玉造商工会

宮城県大崎市岩出山字浦小路 40-5 電話 0229-72-0027 FAX0229-72-0097

URL : tamadukuri.miyagi-fsci.or.jp

担当

【ご記入にあたってのお願い】

- ・ご回答前に、実施要領をご精読いただけますようお願いいたします。
- ・ご回答は、事業所の経営者等、経営の実情を把握されている方をお願いいたします。
- ・質問は大きく3問です。中でも、質問1-1、質問2-1、質問3-1の判断の理由については重要な質問ですので記入漏れがないようお願いいたします。

質問1. 当該四半期の景況感は、貴事業所においてどのような傾向でしょうか？（1つに○）

1. 景気がよい
2. やや景気がよい
3. 例年と変わらない
4. やや景気が悪い
5. 景気が悪い

質問1-1. 質問1. の判断理由について、調査実施要項の《判断項目の例》（重要指標）を参考にして具体的にお書きください。（自由記述）

質問2. 次期四半期の景況感は、貴事業所においてどのように見通しですか？（1つに○）

1. 景気がよい
2. やや景気がよい
3. 例年と変わらない
4. やや景気が悪い
5. 景気が悪い

質問2-1. 質問2. の判断理由について、調査実施要項の《判断項目の例》（重要指標）を参考にして具体的にお書きください。（自由記述）

質問3. 貴事業所では、今後1年以内に設備投資を行う予定はありますか？（1つに○）

1. ある
2. ない

質問3-1. 質問3. で「1. ある」と回答された方に伺います。設備投資を行うのはどのような理由からですか？ご自由にお書きください。

～～ご協力誠にありがとうございました。～～